



## 山根貞男のお楽しみゼミナール

「踊り子行状記」の最大の見どころは、なんといっても市川雷蔵・勝新太郎・山本富士子の共演であろう。むしろ競演と書くべきか。

一九五五年の大映作品で、市川雷蔵と勝新太郎にとっては前年のデビュー作「花の白虎隊」につぐ二度目の顔合わせになる。山本富士子とは初めてである。三人はこの直前「薔薇いくたびか」に出ているが、オールスター作品で、実質的な競演とはいえない。このあと、それぞれ大映スターとして大きくなっていく三人が、同じ一九三二年の生まれであるのも興味深い。

争う二人の踊り子！ 魅力爆発する月下の決闘！  
この映画の惹句である。剣と恋、二人と二人、と読み込み、的確にドラマの興趣を盛り上げていく。いまの時点から見れば、勝新太郎は美剣士というのがやはり妙だが、当時はそれが不思議でも何でもなかった。実際、画面では、勝新太郎が「水もしたたる」という形容にびびったりの美剣の若侍を演じた表情で演じている。

勝新太郎の熱血の若者が正義感からカッとなって人を殺し、親友の市川雷蔵が身代わりに罪を引き受けて姿を隠す。この役柄の違いが面白い。市川雷



蔵は悲しい運命、勝新太郎は屈折した心情。この対照は数年後の名作「薄桜記」（一九五九）における二人の役柄にも当てはまる。むしろそれは現在の感想にすぎないが、そういうことも昔の映画を見る楽しさである。

この年の出演本数は、市川雷蔵が九本、勝新太郎が十本、そして山本富士子が九本。調べてみて、勝新太郎がいちばん多いことに意外な気がする。大映としては、数のなかで勝新の個性を探っていたのであろう。それは市川雷蔵や山本富士子も同様で、「踊り子行状記」の宣伝チラシには、「大映時代劇界の三大人気スター」とあるが、三人ともまだ決定打がなかった。だからこそ逆に、どこか頼りない姿が初々しい輝きを放っている。



### ■キャスト

主演 市川雷蔵  
勝新太郎  
山本富士子  
市川右太衛門  
千代  
江島みどり  
長谷川裕見子  
水城福海  
黒川弥太郎  
大日蓮隆南  
市川小太夫  
香東あけみ  
河野秋武  
市川右太衛門  
富田信次郎  
食城一馬  
光岡龍三郎  
文島ゆづる  
山根三三郎  
伊藤三郎  
原吉の次郎  
藤原 隆  
中園重四郎  
堀北幸夫  
高田の次郎  
滝山英次  
岩吉  
小林 清  
奥の藤三  
大岡八郎  
若井 龍  
武智豊子  
村田美津子  
原野

### ■スタッフ

企画 ● 高橋義生  
原作 ● 直木三十五  
脚本 ● 西条照太郎  
大塚 稔  
監督 ● 安田公義  
撮影 ● 武田千吉郎  
録音 ● 美村野弘  
照明 ● 岡田 一  
音楽 ● 久松静一  
美術 ● 上土義二  
装飾 ● 西田藤雄  
被服 ● 梶谷信雄  
髪型 ● 宮内昌平  
製作 ● 藤岡勲五郎  
助監督 ● 小宮好彦  
製作主任 ● 白井祥雄

◎本館には保存庫から最良の状態で製作しておりますが、映倫公開時より長い年月を経ておりますので、一部作品にはお見苦しい場面もございます。あしからずご了承ください。